

初級文法を扱う導入及び復習用プリントを作成する際のポイント

山口薫 (南山大学)

Making handouts to introduce and review grammar for beginner learners of Japanese: The main points

Kaoru YAMAGUCHI (Nanzan University)

キーワード： プリント，導入・復習，表形式，累積，イラスト

Keywords : handouts, grammar introduction and review, table form, accumulation, illustrations

SUMMARY

This paper explains handouts that introduce and review Japanese grammar so that learners can study more easily, and look at what they have learnt over and over again. There are four main points: the use of a table form, the accumulation of lexical and grammar items, the utilization of illustrations, and the placement of “I,” “my family,” “the place where I am,” and “now” at the center of the handouts. Learners gave affirmative feedback on all of these four points.

1. はじめに

日本国内で学んでいる日本語学習者の母語背景は様々なので、文法事項の説明をする際には、日本語の例文をいくつか提示したり、既習の語彙や表現を使って明示的に指導したりするのが一般的である。文法書の各国語版が出されている教材(教材①⑥)や、文法解説が英語でなされている教材(教材②③④⑦)もあるが、次々と新しい文法項目が導入され、整理が追いつかない学習者も出てこよう。実際学習者から、「習った時は覚えているのだが、時間が経つと忘れてしまう。」「その文法項目だけに焦点を当てて練習している時はいいが、いざ自由に話そう、文章を書こうと思った時、どの文法項目を使えばいいのかわからなくなってしまう。」「既に習った文法項目との違いや関連性がよくわからない。」といった質問や相談を受けることがよくある。どんなに優秀な学習者でも、一回の授業を受けただけで新しい項目を完全に理解することは難しいであろうし、その時は理解できても、その後も継続的に、既習項目との使い分けを適切に行いながら日本語の文を産出していくことは困難を伴うものであろう。

そこで、新出の文法項目の形や意味を、既習のものとは対比させつつ提示したプリントを配れば、既習項目の定着を図りつつ新出項目を積み上げていけるのではないかと考えた。また図やイラストを活用すれば、どの国・地域から来た学習者にも直観的に理解させられると思われる。更に、そうして文法をわかりやすく示したプリントが手元に残っていれば、学習者は何度でも復習して常に全体像を見渡しながら学習を発展させていくことができるはずである。そしてそれが、学習者の自律的学習へつながっ

ていくものと期待される。

2. これまでに出版された教材や参考書

これまでに出版された教材①～⑧や、教師用参考書（吉川（1989）、松岡（2000）、友松他（2007）など）を確認したところ、以下のようなことがわかった。

- ・ある課で学ぶ特定の文法項目に焦点を当てた活用表や、教科書巻末の一覧表は掲載されているが、その課までに学んだ関連語句や文型を全て挙げた上で違いを明確に示した図表が、課ごとに提示されているわけではない。
- ・イラストを活用して文法事項を説明しているものは少ない。教材⑤では文型の導入にイラストが効果的に使われているが、その課までに習った文法項目の意味や使い方との違いまで表しているわけではない。

3. 導入及び復習用プリントについて

そこで、こうした不十分な点を補うため、導入と復習の二つの機能を併せ持ったプリントを作成することを考え付いた。導入時においては、学習者にとって新しい文法項目を理解する助けになりうる。また紙媒体であるので、学習者はある項目を習い終えた後でも取り出して見直し、自律的にポイントを再確認することができる。外国語の習得では、文法を理解し言葉や表現を覚えた後、学んだことを忘れないように定着させていかなければならない。そのためには、文法項目の意味や使い方、品詞のグループ分けや活用の仕方など、何度でも確認する必要がある。プリントは、そのための拠り所となる。

なお本報告では、教材①を日本語のメインテキストとして使用することを前提としている。それは、3.2 で述べる「累積」の実例を示すにあたっては、ある特定の教材に準拠せざるをえないからである。しかしポイントさえ押さえれば、文法積み上げ式の別の教材でも同様のプリントを作成することができる。

そのポイントとは、「表形式にすること」「既習の語彙や文法項目を累積していくこと」「イラストを活用すること」「『私・私の家族、私がいる場所、今』をプリントの中心に据えること」の4つである。以下、一つ一つ具体例を挙げて説明していく。

3.1 表形式にすること

日本語の用言の活用の仕方は、大きく分けて3つのレベルがある。一つは、「て、た、ない、ば」などが続く時に語尾が変化するものである。もう一つは、動詞のみであるが、「られる、させる」などがつくことにより、新たな別の動詞に変わるものである。更にもう一つは、名詞への接続も含め、「現在／過去」「肯定／否定」を組み合わせた様々な形に変化し、文体にも関わってくる「丁寧形・普通形²」である。

これら3つのレベルの活用が複雑に絡み合っている日本語の文が成り立っているため、日本語の用言の活用は複雑で覚えにくいと感じる学習者が多いのである。これらの語尾変化のルールについてメタ言語で説明する必要があるが、表の形式で提示すれば、学習者にとってより把握しやすいものとなる。

これまで、上記の一つ目と二つ目のレベルの活用についてまとめた表は多く提出さ

れているが、丁寧形と普通形に焦点を当て、各品詞に続く表現への接続形式まで網羅したものは見当たらない。そこで、表1を作成した。これは、教材①のL26までに出てきた「～時、～んです、～でしょう?、～と思う」などの各品詞への接続の仕方を一覧にしたものである。上から「名詞 (N)、ナ形容詞 (ナ A)、イ形容詞 (イ A)、動詞 (V)、他の言い方」の順に並べてある。左側が丁寧形、右側が普通形で、プリント左右の同じ水平位置に、2種類の形が対照できるように示してある。

普通形では、NとナAの現在肯定形への接続の仕方に4つのパターンがある³。それは、他のNや「時」などの前で「N+の」「ナA+な」となるもの、「んです」の前でN・ナAともに「な」をつけるもの、「でしょう?」の前で活用形が何もないもの、そして、理由を表す「から」や引用を表す「と」が後接する時に現れる「N/ナA+だ」である。このL26の後にも様々な後続表現が出てくるが、殆どがこの4つのパターンのうちいずれかの接続の仕方をする。しかも何らかの規則性がある。

まず「N+の」「ナA+な」に続くのは、「時、場合、はずだ、ようだ」など、いずれも本来名詞だった言葉である。NにもナAにも「な」をつけるのは、「ん(の)です、のを、のは、ので、のに(逆接)」、つまり最初の子音が「n」の言葉である。活用形が何もないのは、「でしょう、だろう、かどうか、らしい」のように、「で、だ、ら」または「か(不定)」で始まる言い方である。そして「N/ナA+だ」に続くのは、理由を表す「から、し」や、引用・伝聞を表す「～と、～そうだ」である。

表1の右端の枠の中で後続表現を4つのグループに分けて記載してあるのは、この接続形式の違いを表している。この4パターンを知っていれば、教え方も変わる。例えば、『はず』の前は『N+の』『ナA+な』だ」と覚えさせていたのが、「L22で習った、名詞を説明する言い方と同じだ。」と教えられるようになる。それにより学習者は、新しい文型を覚えると同時に、既に習った名詞修飾の接続形式の復習もできるようになるわけである。

なお、表の中に記してある「(数字)」は、教材①での初出の課を示している。これは学習者が既習項目について確かめたくなくなった時、すぐそれを習った課に立ち返れるよう配慮したものである。

3.2 既習の語彙や文法項目を累積していくこと

学習者が学ぶべき語彙や文法項目は、教科書の課が進むに従って増えていくのだが、通常はその課で学ぶ新出項目に焦点が当てられるので、既習項目との関連性がつかみにくくなりがちである。そこで、それまでに習った全ての語彙や文法項目と対比させた上で新しい文法概念を導入していけば、既習の事柄の再認識にもつながり、学習者の理解と定着を促すのではないかと考えた。

例えば動詞であれば、初出の課(L4)では「動きを表す言葉」として扱われるだけだが、L14では活用の仕方による3つのグループ分けが導入され、L23で「意志/無意志⁴」の違いのあることが示唆され、L29で自動詞・他動詞の区別のあることが提示される。従って学習者は、既に習った動詞がどの範疇に属するものであったか、その都度捉え直さなければならない。しかし新たな文法概念を、その課までに習った全ての語彙とともに示したものは、これまでの教材には見当たらない。

表 1「丁寧形と普通形」(～L26)

		丁寧形		普通形	
N/ ナA	言葉の例	です	(8)	の	N(1,2,3,8,22)、 時
		じゃありません でした	(12)	な	ん(の)です でしょう?
IA	言葉の例	いです くないです	(8)	だ	から、 と思う/言う
		かったです くなかったです	(12)	じゃない だった じゃなかった	N(22) 時(23)
V	言葉の例	きます きません きました きませんでした	(4)	い くない かった くなかった	ん(の)です(26) でしょう?(21)
		辞書形(18) ない形(17) た形(19) かなかった		く かない った かなかった	から(9) と思う(21) と言う(21)
他の 言い方		V(て形) ています(14,15,22) V(ない形) なければなりません(17)		V(て形) ている(14,15,22) V(ない形) なければなりません(17)	

そこで、以下のように語彙を累積してプリントに載せていく方式を思いついた。まず L14 でこれまでにでてきた全ての動詞を3つのグループに分け、更に I グループの動詞については活用する行、II グループの動詞については「e-ます/i-ます」によっても下位分類した。次に L23 では、上記の分類を残したまま、「~ましょう、~たい、~てください」と言える動詞（意志動詞）と言えない動詞（無意志動詞）の区別も加えた。そして L29 では自他動詞の情報も入れ、「を格」を取る自動詞も別枠にまとめた（表2）。ただし、L29 まで学習が進むと語彙もかなり増えるので、I グループの行や II グループの「e-ます/i-ます」の区別は取り払った。この課以降は、感情を表す無意志動詞の枠を設ける以外は、最後の課まで語彙を追加していくだけである。

文法項目を累積していく図表も作成することができる。例えば授受表現であれば、まず L7 で物の受け渡しだけを学び、次に L24 で「相手のために何かする」という行為を伴った表現形式が導入される。更に L41 で待遇表現が加わり、最後の課（L50）では、謙譲表現を使った授受表現も提示されるのである。このように徐々に文法項目が積み上げられていく様子を、図 1.1 から図 1.3 に示した。

こうして学習の初期段階から語彙や文法項目を小出しに追加していき、その都度整理や復習を促していけば、学習者への負担を少しでも減らせることであろう。

3.3 イラストを活用すること

初級文法では、場面や状況、話し手と聞き手との関係、話し手の気持ちや頭の中で考えていること、意志の有無などが表現形式に大きく関わってくるので、これらをきちんと把握することが大切だが、言葉だけでは表しにくいものも多い。しかしイラストを使えば、短い時間で学習者に伝えることができる。

例えばアスペクトは、動作や出来事がどの段階にあるのかを示す文法事項だが、テンスとの区別もあり、学習者にとって理解しにくいものの一つである。しかし図 2 のようなイラストを提示すれば、『『食べる』という動作のどの段階であるのか』『それにより相手の誘いに対する答え方がどう変わるのか』『『~たところ』と『~たばかり』はどう異なるのか』などを視覚的に示すことができる。

このようなプリントを作るために利用できるイラストデータとしては、教材①③⑥⑧付属のイラスト集の他、ワードのクリップアートやネット上の素材などがある⁵。

3.4 「私・私の家族、私がいる場所、今」をプリントの中心に据えること

日本語の多くの語彙や表現形式のうち、人間関係、位置関係、時間関係については、それぞれ「私・私の家族、私がいる場所、今」をプリントの中心に据えれば、関係性がつかみやすくなる。

人間関係であれば、中心部に自分と自分の家族、その外側に友だちや会社の同僚、更にその外側に先生や上司、お客、初めて会った人などを配置するのである（図 3⁶）。この関係を把握することが、親族名称や会話のスタイル、授受表現⁷、敬語表現などの使い分けを理解するための前提となる。

位置関係の図は、自分が今いる所（教室）から、住んでいる地域、日本国内、世界へと同心円状に広がっていく感じになる。これにより、例えば「行く、来る、帰る」

表 2 「動詞」 (～L29)

	○「～ましょう,～たい,～てください」	×「～ましょう,～たい,～てください」
自 動 詞	<p>I: 会う, 通う, 働く, (人が) <u>動く</u>, 急ぐ, 立つ, 遊ぶ, 住む, 帰る, 座る, 踊る, (医者に) <u>なる</u>, (喫茶店/大学/お風呂 に) <u>入る</u></p> <p>II: 出かける, 寝る, いる, 起きる</p> <p>III: 結婚/食事/買物/仕事/電話/留学/おしゃべり する, 来る</p> <p>(場所十を)</p> <p>I: 行く, 歩く, 泳ぐ, (空を) 飛ぶ, 休む, 走る, 渡る, (角を) <u>曲がる</u></p> <p>II: (部屋/大学 を) <u>出る</u>⁸, 降りる</p> <p>III: 散歩/旅行/ジョギング する</p>	<p>I: 間に合う, 違う, (駅に) 着く, (時計が) <u>動く</u>, (荷物が) 片付く, 閉まる, (エレベーターが) 止まる, (授業が) <u>終わる</u>, (病気に) <u>なる</u>, (時間/かぎ が) かかる, (かばんに本が) <u>入る</u>, <u>曲がる</u> (まっすぐじゃない)</p> <p>II: 疲れる, 負ける, 生まれる, 遅れる, 燃える, 見える, 聞こえる, 売れる, 消える, 割れる, 破れる, 折れる, (お釣り/せき が) <u>出る</u>⁸, (スキー/空港 が) できる, 足りる</p> <p>III: 故障する</p>
他 動 詞 (<u>を</u>)	<p>I: 買う, 吸う, 手伝う, 習う, もらう, 使う, 払う, 洗う, 書く, (絵を) 描く, 置く, 持って行く, (音楽を/先生に) 聞く, 連れて行く, 脱ぐ, 貸す, 話す, 消す, 押す, 返す, 直す, 待つ, 持つ, 呼ぶ, 選ぶ, (ビール/菓を) 飲む, 読む, 切る, 作る, (物/休み を) <u>取る</u>, (写真を) 撮る, (荷物/人 を) 送る, 知る, (～を) <u>終わる</u></p> <p>II: 食べる, (電気を) つける, 気をつける, 教える, (窓を) 開ける, 閉める, 覚える, (電話/めがね を) かける, 変える, やめる, 調べる, (物/コーヒー を) 入れる, 捨てる, 考える, 建てる, 付ける, (いやなことを) <u>忘れる</u>, 見る, 着る, 借りる, 浴びる</p> <p>III: 勉強/研究/確認/運転/見学/予約/掃除/洗濯/練習/紹介/説明/準備/連絡/メモ/コピー する, 持って来る, 連れて来る</p>	<p>I: なくす, 思い出す, (年を) <u>取る</u></p> <p>II: (漢字を) <u>忘れる</u>, 間違える, (夢を) みる</p> <p>III: 心配する</p>

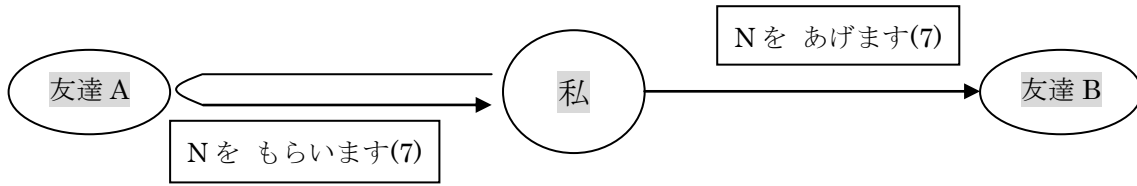


図 1.1 「授受表現 1」 (L7)

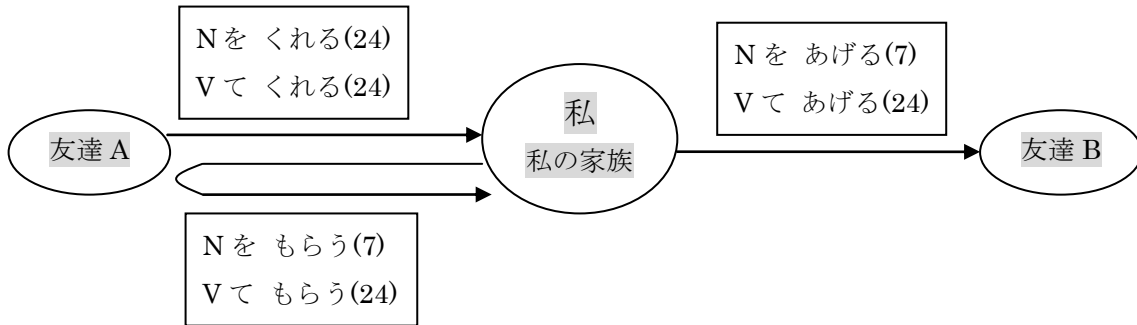


図 1.2 「授受表現 2」 (~L24)

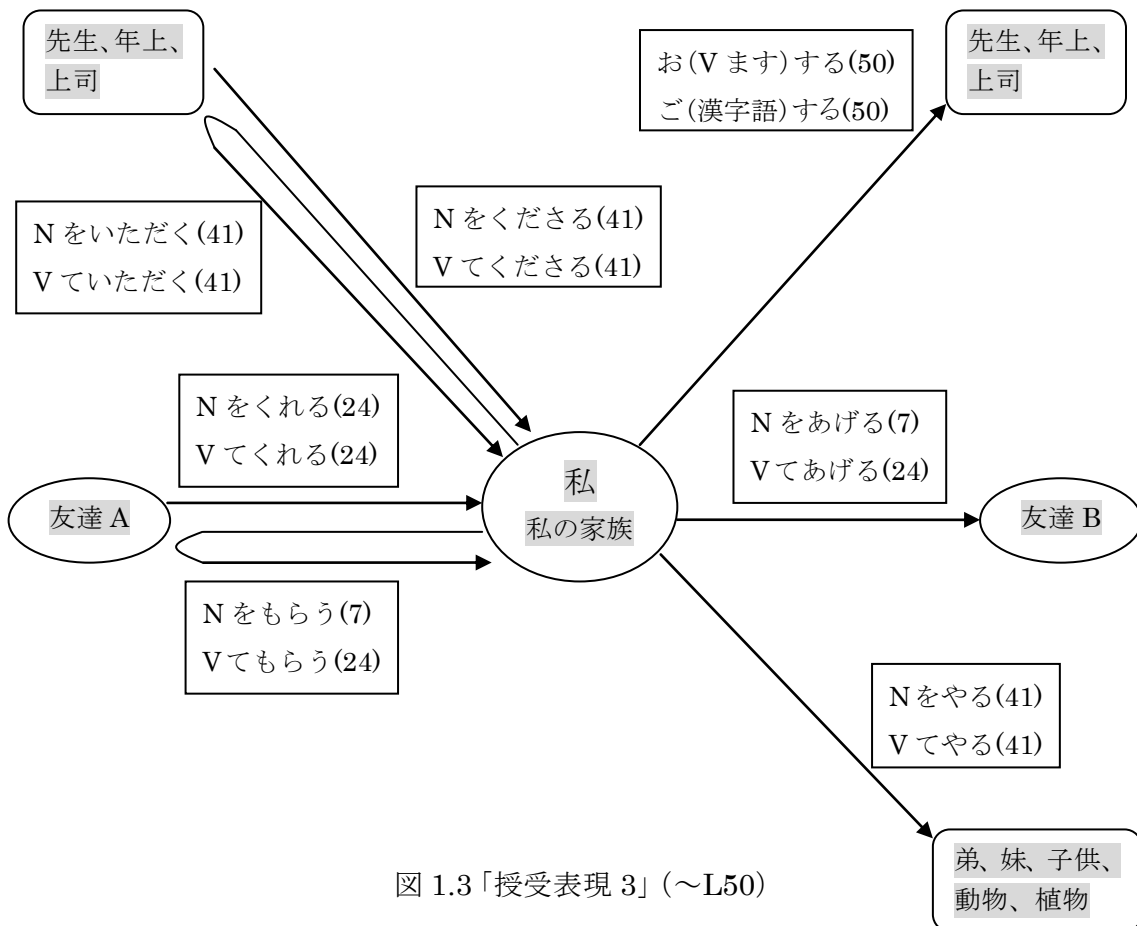


図 1.3 「授受表現 3」 (~L50)

★「これから、(ちょうど) 今から」



今からレストランへ
食べに行く
ところ。
リサも一緒に
行かない?

トム

リサ

トム、お昼ご飯、
食べに行かない?

★「今」




今、レストランで
食べているところ。
リサも来ない?

トム

リサ

トム、お昼ご飯、
食べに行かない?

★「たった今」



たった今、食べたところ。
ごめん。また今度ね。

リサ

トム、お昼ご飯、
食べに行かない?

★「V+ばかりだ」



13:00



13:15



時間がとても短い。

トム、一緒に
テニスしない?

さっき食事したばかり
だから、今は運動したく
ないな…。ごめん。

図2 「V+ところ/ばかり だ」 (L46)

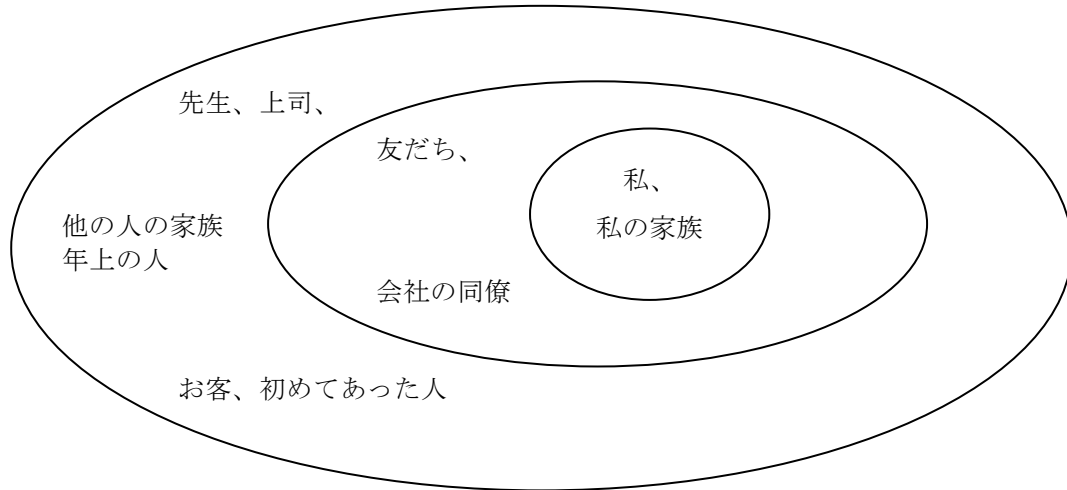


図3「人間関係」(～L11)

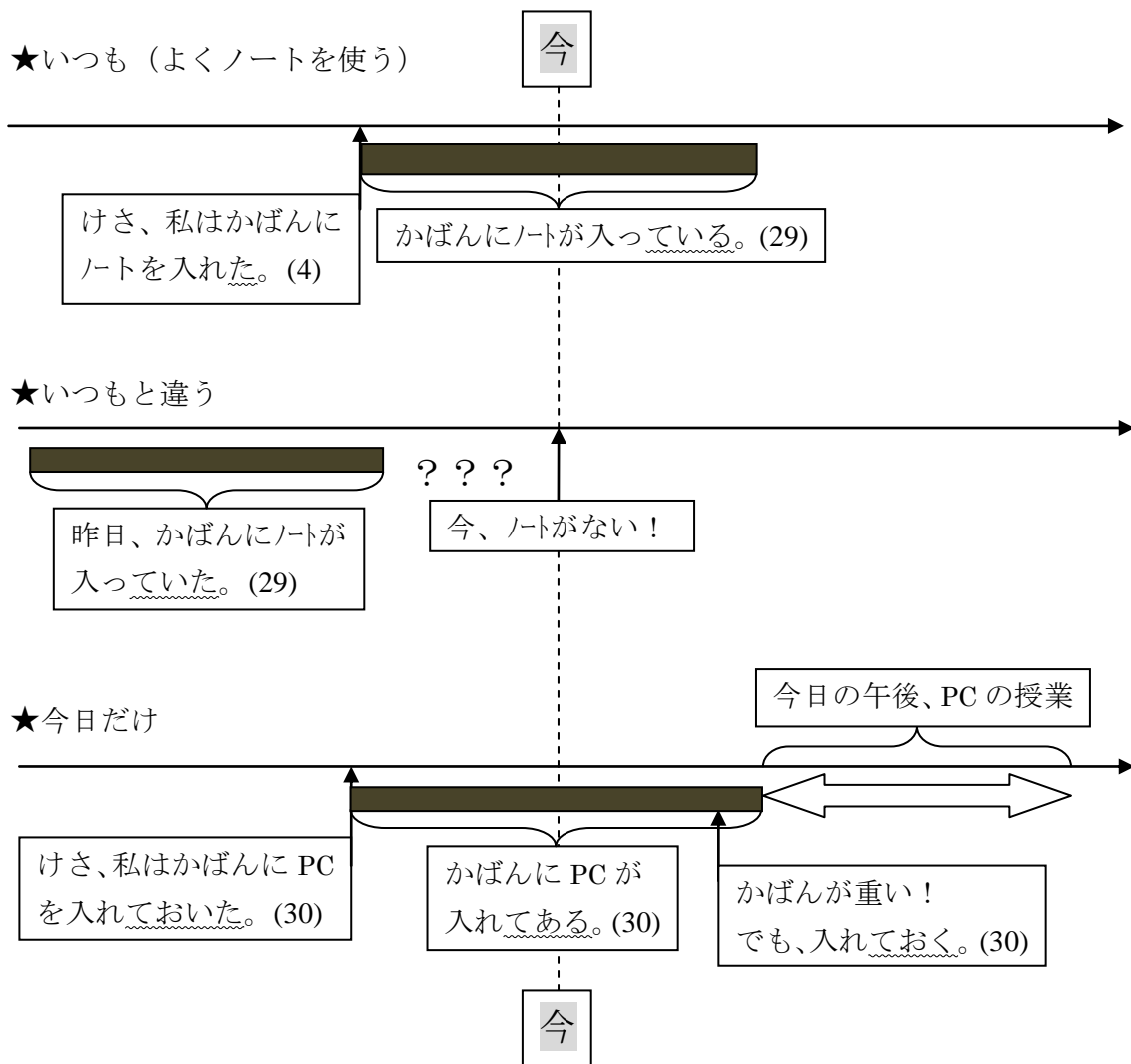


図4「V+て いる/ある/おく」(～L30)

の方向性が見えやすくなる。

時間関係では、時間軸の中心を「今」とし、その左側を「過去」、右側を「未来」とみなす図を作成する。こうすれば、「～する／した／している／ていた、～である／しておく、もう／まだ、～たことがある」などのテンス・アスペクト表現が、どの時点や時間帯の事柄について述べたものなのかを視覚的に示すことができる（図4）。

4. 授業実践と学習者のコメント

4.1 授業実践

以上、4つのコンセプトに基づいて、教材①のほぼ全ての課についてプリントを作成し、授業で使用した。クラスの概要は、表3の通りである。

表3「クラスの概要」

	クラス①	クラス②
共通する事柄	愛知県の南山大学で学ぶ学部留学生、レベルは日本語初級、メインテキストは教材①	
時期	2014年4月～7月	2014年9月～10月
学生数	13名	11名
出身国・地域	中国(7)、タイ(3)、フィリピン(2)、メキシコ(1)	中国(6)、台湾(3)、タイ(2)

4.2 学習者のコメント

そしてプリントへのコメントを求めるため、2014年7月と10月にアンケート調査を行った⁹。各質問項目に答える際の言語は、日本語、英語、中国語のうちいずれを使用してもよいとした。以下に、学習者のコメントを載せる。

4.2.1 表形式について

「VやA、Nの接続形式がわかりやすくまとめられている（表1を指す）ので、覚えやすい。(13¹⁰)」とのコメントが多かった。他に、「Vの分類表（表2を指す）がわかりやすい。(4)」「日本語の勉強に役に立つ。(3)」「頭の中がすっきりする。(2)」「授業の後、復習するのに便利だ。」などのコメントもあった。

一方、「最初は表の見方がわからなかった。(3)」「『ます形：会います、て形：会って』のような書き方のほうがわかりやすい。」との意見もあった。

4.2.2 既習の語彙や表現を累積したことについて

「新しい言葉や表現が、以前習ったものと比較されているので、違いがよくわかる。(18)」の他、「新しいことを勉強しながら、習ったことも復習できる。(2)」「今までに勉強したことが全部書いてあるから、役に立つ。」「順序を追ってだんだん覚えていく方法も効果がある。」などのコメントがあった。

4.2.3 イラストの活用について

「場面や人間関係を絵や写真、矢印などで説明しているの、わかりやすい。(16)」の他、「普段の生活の中で、どんな場合にどんな言葉を使うのか、よくわかる。(11)」

「言葉や会話をイラストと組み合わせて示してくれるので、イメージがつかみやすい。(4)」「様々な状況にあてはめることができる。(4)」「楽しく勉強できる。(4)」「授受表現(図 1.1~1.3 を指す)では、物や行為の与え手や受け手がよくわかる。(2)」「対話形式で文型が示してあるので、覚えやすい。」などのコメントを得た。

4.2.4 「私・私の家族、私がいる場所、今」をプリントの中心に据えたことについて

『過去→現在→未来』のタイムラインの中で文型をどのように使うのか、よくわかる。(5)」の他、「自分との関係がはっきりとわかる。(2)」「自分の状況を、学習内容と関連付けて学べる。」「親族名称は日本語と英語で異なるが、プリントのおかげでよくわかる。」などのコメントがあった。

4.2.5 その他、プリントの良かった点や、直した方がいい点について

良かった点としては、「複雑な文法でも簡単にわかりやすく書いてあるので、ポイントがつかみやすい。(4)」の他、「全体的に役に立つ。(9)」「テキストの第何課で習ったか書いてあるので、すぐ復習できる。(3)」「自分が見落としていたところを補ってくれる。(2)」「復習する時、短い時間で大きな収穫を得ることができる。」などがあった。

一方、直した方がいい点としては、「もっと例文が多い方がいい。(3)」の他、「カラーであれば、なおいい(2)」「情報があまりに多すぎて、混乱してしまう時もある。」「全て A4 サイズに揃えてもらいたい。」「¹¹⁾」「両面コピーや2課分を1枚にコピーしたものは、整理がしにくい。」などの意見も出された。

4.3 考察

こうしてみると学習者は、作成者の狙い通り、プリントのいい点を評価しているといえる。学習者にプリントを配り見方の説明をしたのは導入時だが、学習者が復習用としても利用していたことがうかがえる。

一部に、情報量の多さや表のサイズに関して否定的な意見が出されているが、その時点までに習ったこと全てをまとめて一覧できる形で示そうとすると、ある程度の情報量もサイズも必要になるのである。配付時に表の見方を丁寧に説明するなどして対応していきたい、と考えている。

5. おわりに

初級文法は日本語の基礎となる重要なものであり、ここをしっかりとっておくことが、日本語の理解や運用力の向上へとつながっていくのである。それを実現させるために、文法事項をできる限りシンプルかつ明確に学習者に提示するよう心掛けた。

しかしながら、実際に教授対象とした学習者の数はまだ少ないので、今後も継続してこれらのプリントを使った授業を行い学習者からフィードバックを受けることにより、プリントが更にわかりやすく効果的なものになるよう改訂を加えていきたい。

注

1 本報告は、2014年3月に「台湾日本語文學會 第304例会」において口頭発表し

たものに、加筆修正を施したものである。

- 2 「丁寧形・普通形」の用語としては、他にも「敬体／常体」「です・ます体／基本体」「polite style／plain style」「long forms／short forms」など様々なものがある。だが本報告では、教材①に準拠したプリントを掲載するので、用語も教材①で使われているものを用いる。以下、他の文法用語に関しても同様である。
- 3 同様の説明は教材⑧にもあるが、表形式にはなっていない。
- 4 動詞に意志があるかないかは、L23 で習う「～と」ばかりでなく、その後学ぶ可能、受身、「～て いる／ある／おく」「～ば」「～ように／ために」「～て (原因・理由)」など、様々な文法項目に関わってくる。
- 5 著作権の関係もあり、図2の中のイラストは、全てクリップアートかネット上のイラスト素材を利用した。
- 6 学習者に配付したプリントは絵入りだが、紙面の関係で文字だけのものを提示する。
- 7 図1.1～1.3でも、「私」は常にプリントの真ん中に据えてある。
- 8 表2の中の「出る」のように波線が引いてある動詞は、前後の文脈によって意志動詞にも無意志動詞にもなりうるものである。
なお紙面の関係で、L29までの全ての動詞のうち、一部を削除してある。
- 9 このアンケート調査は、南山大学研究審査委員会において倫理審査を受け、承認された上で行ったものである(承認番号:14-001)。これに沿って対象となる学習者に事前に趣旨説明をし、調査結果を本報告のために利用してもよいとする同意を得た。
- 10 ()内の数字は、クラス①と②の延べ人数24名中の回答者数を表す。()がないのは、1名のみ回答である。以下、同様。
- 11 教材①の2冊目に入ると情報量が多くなり、A4一枚には収まりきらなくなるため、A4の紙を左右に二枚並べて作成したA3サイズの表が多くなった。そのことを指しているものと思われる。

教材

- ①スリーエーネットワーク編(1998-2007).『みんなの日本語初級I/II』.スリーエーネットワーク.
- ②東京外国語大学留学生日本語教育センター編著(2010).『初級日本語 上/下』.凡人社.
- ③坂野永理他著(2011).『初級日本語 げんき』.ジャパントイムズ.
- ④筑波ランゲージグループ著(1991-2002).『SITUATIONAL FUNCTIONAL JAPANESE 1-3』.凡人社.
- ⑤文化外国語専門学校編著(2000).『新文化初級日本語I/II』.凡人社.
- ⑥山崎佳子他著(2008-2011).『日本語初級 大地1/2』.スリーエーネットワーク.
- ⑦西口光一著(2012).『NEJ テーマで学ぶ基礎日本語1/2』.くろしお出版.
- ⑧嶋田和子監修(2011-2012).『できる日本語 初級/初中級 本冊』.アルク.

教師用参考書

- 友松悦子・宮本淳・和栗雅子(2007).『日本語表現文型事典』.アルク.
- 松岡弘(2000).『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』.スリーエーネットワーク.
- 吉川武時(1989).『NAFL 選書6 日本語文法入門』.アルク.